

水稻生育情報 (No.6)

令和2年7月27日
 県西農林事務所 経営・普及部門
 (筑西地域農業改良普及センター)
 TEL:0296-24-9206

【生育概況】

・水稻定点調査における管内の「コシヒカリ」生育状況を下表に示します。7月20日現在の生育は、草丈は平年並～やや長く、莖数は圃場によるばらつきが大きく、葉色はやや濃い状況です。出穂期予測は今後の気温が平年並で推移する場合の予測です。

表1 水稻定点調査結果(7月20日現在:コシヒカリ)

調査地点	田植え日 月/日	植付株数 株/坪	草丈 cm	莖数 本/m ²	葉色 葉色版	SPAD値	幼穂長 mm	出穂予測日 (月/日)
筑西市 一本松	5月7日 (5月2日)	57 (55)	94 (95)	416 (471)	4.1 (4.0)	36.1 (31.5)	80 (170)	7/31
下妻市 加養	4月30日 (5月1日)	48 (48)	98 (94)	431 (461)	3.9 (3.4)	36.0 (31.4)	182.5 (171)	7/25
桜川市 岩瀬	5月7日 (5月14日)	66 (61)	89 (87)	499 (448)	3.5 (3.7)	33.2 (31.6)	79 (56)	7/31
桜川市 真壁町飯塚	5月5日 (5月6日)	50 (51)	93 (93)	471 (406)	3.9 (3.5)	35.6 (32.4)	47 (145)	8/1

()内は平成27～令和元年の5カ年平均値

(桜川市岩瀬のみ田植の遅れた平成30年を除く平成26～令和元年の5カ年平均値)

【今後の管理のポイント】

・乳白粒発生を軽減するための水管理について

気象庁の1か月予報(7/23発表)によると、期間の前半(7/25～8/7)は平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。しかし、期間の後半(8/8～21)は平年と同様に晴れの日が多い見込みで、気温は平年並または高い確率ともに40%と予想されています。

そのため、登熟期の高温による乳白粒、胴割粒等の発生を防止するために、間断かん水を実施しましょう。

出穂期以降の間断かん水は図のように入水と自然落水を交互に繰り返します。入水時期の目安は、田面に触れると「湿り気を感じる程度」から「水が付着する程度」です。田面が乾きすぎないように十分注意しましょう。

また、コシヒカリでは出穂してから最低30日間は間断かん水を行いましょう。

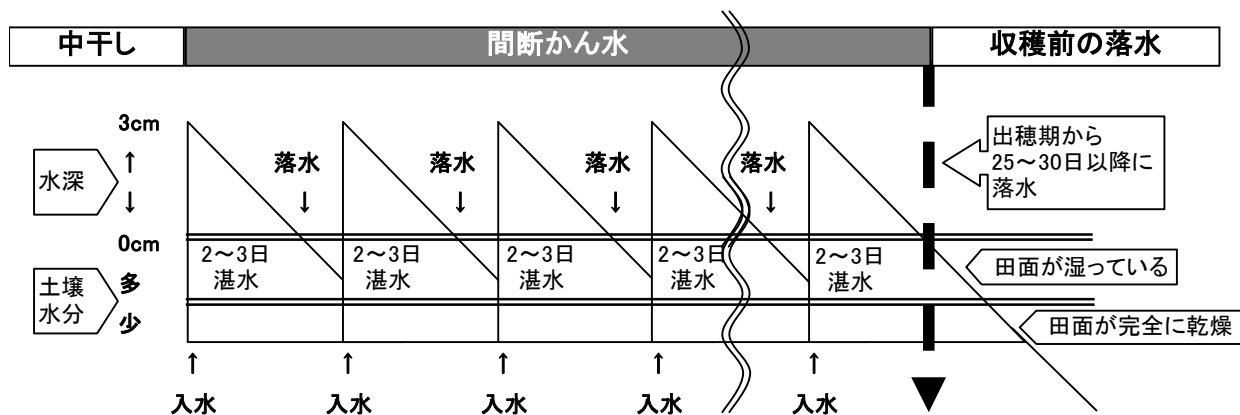


図 間断かん水および落水の模式図

・適期収穫について

早刈りは千粒重が軽くなり、収量を低下させるとともに、玄米への青未熟粒の混入割合が増えて、落等要因となることがあります。逆に刈り遅れは胴割粒などの被害粒や茶米・着色粒の発生が増えて、早刈りと同じく落等要因になり得ます。適期収穫を心がけましょう。

出穂期から収穫までの日数はコシヒカリでは 35~40 日程度となります。この日数はあくまでも目安なので、最終的には場で直接籾の色を確認(帯緑籾率)して適期収穫に努めて下さい。収穫適期は帯緑籾率が 10~5%程度(一穂あたり約 6 粒前後)の時です。

コシヒカリ

帯緑籾率 (%)	成熟期 前日数
55	11
30	8
25	6
20	4
15	2
10	適期 (0)
5	適期 (-4)
3	刈り遅れ



帯緑籾率
約 10%
最適状態